

【優良な労働力の確保 ⑫】

優良な技能者の育成

1. 施策の概要

施工管理能力や指導能力に優れた「基幹技能者」や、複数の工事を横断的に施工できる「多能工」などの優良な技能労働者を育成し、公共工事のコスト縮減に寄与するために、以下の施策を実施。

(1) 業種横断的訓練校における多能工等の育成

建設業界で今後、重点的に確保・育成することが重要とされている「多能工」などの優秀な人材を育成するための業種横断的な教育訓練機関として、「富士教育訓練センター」を平成9年3月に設立。他の教育訓練機関に見られないような業種横断的な教育訓練を実施することにより、多能工等の優秀な人材を輩出。

(2) 「基幹技能者」育成事業への支援

現場の状況に応じた施工方法等の提案、他の職長との連絡調整、一般の技能者への適切な指示・指導などの能力に優れた「基幹技能者」の育成を図るために、業種ごとの基幹技能者の在り方、評価制度、育成方針等を盛り込んだ「技能開発計画」の策定を行う専門工事業団体に対して支援を実施。

2. 進捗状況、継続性

(1) 業種横断的訓練校における多能工の育成実績・計画

・平成9年度	教育訓練コース	79コース		
	教育訓練受講者	1,660名	教育訓練人日	20,108人日
・10年度	教育訓練コース	83コース		
	教育訓練受講者	2,170名	教育訓練人日	21,059人日
・11年度	教育訓練コース	80コース		
	教育訓練受講者	2,204名	教育訓練人日	24,698人日

(2) 「基幹技能者」育成事業取組状況

- ・平成11年11月現在、19団体が「技能開発計画」の策定に着手し、このうち10団体が「技能開発計画」を策定済み（当該団体に対して（財）建設業振興基金を通じて助成を実施）。
- ・「技能開発計画」を策定した団体において、基幹技能者に係る民間資格の整備を進めており、平成11年11月現在、4職種にて基幹技能者が誕生。

3. 施策の効果

上記の施策により基幹技能者、多能工をはじめとした優れた技能者が公共工事の現場に配置されることにより、

- (1) 施工方法等に係る提案・調整の実施により作業効率が向上。
- (2) 前工程・後工程に配慮した職長等との連絡調整の実施により、工期が短縮。
- (3) 一般の技能者への指導・指示の実施により、全体の技能レベルが向上。
- (4) 一人の多能工が異なる複数の工事を一貫して担当することにより、より少ない労働力による施工が可能。

等の効果を通じて生産性が向上し、コスト縮減に資することになる。